

最終講義

お別れに際し（定年4教授らへの送別の辞）

学長 廣井正彦

大学に奉職していると3月の卒業式、4月の入学式と若い者を送り、また迎える立場になるといろいろ考えさせることが多い。特に3月は別れの季節でもある。

中国の干武陵（うぶりょう）の「花ひらいて風雨多し、人生別離足る」を井伏鱒二は「ハナニアラシノタトエモアルゾ サヨナラダケガ人生ダ」と名訳したのはあまりにも有名である。

スコットランド民謡「遠き懐かしき昔」の歌から、明治14年稲垣千颯（いながきちかい）によってつけられた歌詞が「ほたるの光」となり、別れの際に歌われるようになった。元歌は別れの歌より旧友との再会を祝し昔を懐かしむ歌とは似ても似つかない歌となった。

螢の光 まどの雪 書（ふみ）よむ月日重ねつつ
いつしか年もすぎの戸を 明けてぞけさは
別れ行く
とまるもゆくも かぎりとして かたみにおもう
千萬（ちよろず）の 心のはしを 一言に
さきくとばかり 歌うなり

小学生の時から歌っていて、別れが現実になってくることを知っている私達の年齢になると、やはりこの歌は涙をさそう。「ただ一言、幸福にと願い」が現実に気持ちである。

最近は何も歌われなくなったが卒業式の定番では「仰げば尊し」がある。

あおげば尊し わが師の恩
教えの庭にも はやいくとせ
思えばいととし この年月
今こそわかれめ いざさらば
互いにむつみし 日ごろの恩
わかるる後にも やよわするな
身を立て名をあげ やよはげめよ
今こそわかれめ いざさらば

数学者の藤原正彦氏はこの「仰げば尊し」の2番の途中までくると感きわまり声も出なくなると

エッセイ集「父の威厳 数学者の意地」で書いている。しかし「ほたるの光」に比して「仰げば尊し」は歌われなくなっているのは淋しい限りだ。教師が生徒や学生やその父母から尊敬されなくなってきたからだろうか。

別れに際し学生や父母から教師が尊敬されなくなったことを考えると、自分がよき教師であったかを改めて反省させられる。

魯迅が1904年、中国の留学生として仙台医学専門学校に入学し解剖学の藤野巖九郎教授と出会ったことは、後に魯迅が短編小説「藤野先生」で今日では容易に知ることが出来る。藤野教授は魯迅を励まし彼のノートに朱筆で添削し続けた。藤野教授と魯迅の間には教授を敬愛し続ける学生と、職業倫理に徹底した教師との師弟愛がめざめ続くことになった。

今日、わが国でこれほどの師と学生との間の緊密な関係があるものがどれほどあるか、私など卒業生を送るたびごとに反省させられる。

今回は看護学科からは長浦・矢本・藤澤・市川教授と、平塚・高橋助教授、佐藤講師、小林助手、作業療法学科より関沢教授、理学療法学科より伊藤教授、百瀬助教授と教員から合計11人と大変多くの先生方が3月末日をもって大学を退職される事になった。また事務局からは上村事務局長はじめ、蜂谷課長、伊藤専門員、石垣専門員、武田主査、小山主査、榎村主事の7人と多くの皆さんが退職または新しい職場に転出することになった。皆さんの御協力がなければ、県立保健医療大学は今日のみる隆盛な発展はありえなかったことはいうまでもないことである。ましてや4月より大学院を有する大学に飛躍することは考えられないことである。本当にありがとうございました。

特に今回退職される看護学科の4人の教授には、戦時中の国民学校といわれる軍国時代に小学教育

をうけ、警戒警報はおろか空襲とそれに続く疎開などを経験し、戦後の焦土と化した中で食料難におそわれ、さらに学制改革の波の中で中学・高校を終え、その後は看護の専門教育をうけて今日に至った、私と同年のいわば「同期の桜」みたいなものであり、お別れに際し寂しさと悲しさもひとしおである。

歴史は英語で history というが、これは「his story」の意味で、「彼の」または「彼女の」「物語り」の積み重ねでもある。先生方の教えを胸に残る我々は大学の発展に更に尽力したいと思いますので、今後とも健康に留意され大学を外部より御支援して下さい幸いです。

お別れに際していうべき言葉も見当たらない。そこで、大木惇夫の「戦友別盃の歌」を朗読させていただき、私の気持ちの一端を御披露して結びの言葉としたい。この詩は詩集「海原にありて歌へる」に收められ、「南支那海に船上にて」と詞書きがついている。大木は昭和9年、東海林太郎の歌った「国境の町」(櫓の鈴さえ寂しく響く)で有名で、この「海原にて歌へる」で戦時中に大東亜文学賞をうけたものである。

「戦友別盃の歌」大木惇夫 (1895 ~ 1977 年)

言うなかれ 君よ わかれを
世の常を また生き死にを
海ばらのはるけき果てに
今や はた何をか言わん
熱き血を捧ぐる者の
大いなる胸を叩けよ
満月を盃にくだきて
暫し ただ酔いて勢えよ
わが征くはバタビヤの街
君はよくバンドンを突け
この夕べの相離るとも
かがやかし南十字を
いつの夜か また共に見ん
言うなかれ 君よ わかれを
見よ、空と水うつところ
黙々と雲は行き雲はゆけるを

(2004年3月24日)